

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	宗教文化学科	夜・通信	0	51	22	73	13	
	歴史学科	夜・通信			24	79	13	
	英語英米文化学科	夜・通信			2	57	13	
	日本文化学科	夜・通信			18	73	13	
	グローバル英語学科	夜・通信			54	109	13	
商学部	商学科	夜・通信	4	65	30	99	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		61	22	87	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		61	26	91	13	
法学部	法律学科	夜・通信		59	10	73	13	
	現代社会法学科	夜・通信			4	67	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信		40	16	60	13	
心身科学部	心理学科	夜・通信		34	37	75	13	
	健康科学科	夜・通信			8	46	13	
	健康栄養学科	夜・通信			24	62	13	
薬学部	医療薬学科	夜・通信		0	5	45	50	19

歯学部	歯学科	夜・通信	4	0	86	90	19	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法：<https://www.agu.ac.jp/life/payment/hutankeigen.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法： http://www.aichi-gakuin.jp/officer/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人愛知学院 理事長 曹洞宗 宗議会議員	2018/4/1 ～ 2022/3/31	法人業務の総理
非常勤	曹洞宗 伝道部長 宗議会議員	2018/11/15 ～ 2020/10/20	学校法人運営
非常勤	曹洞宗 宗議会議員	2018/4/1 ～ 2022/3/31	学校法人運営
非常勤	曹洞宗 宗議会議員	2018/11/15 ～ 2020/10/20	学校法人運営
非常勤	ジェイアールセントラルビル株式会社 元代表取締役社長	2018/4/1 ～ 2022/3/31	財務
非常勤	弁護士	2018/4/1 ～ 2022/3/31	コンプライアンス
非常勤	株式会社トーエネック 元顧問	2018/4/1 ～ 2022/3/31	教育
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>●授業計画の作成過程</p> <p>「シラバス作成マニュアル」および「シラバス作成にあたっての留意点」を取りまとめたマニュアルを全教員に Web 配布し、前年度の1月初旬～2月初旬にかけ、個人別、担当科目ごとに入力してもらっている。</p> <p>その後、2月下旬をめどに、学部(学科)ごとに選任された教員にて「第三者チェック」期間を設け、記入内容不備の修正や訂正、加筆を行っている。</p> <p>●授業計画の作成・公表方法</p> <p>各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の事項を記載した授業計画を作成、新入生には冊子版の授業計画書を配布し、在学生には Web 版を公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbbsshjr.do
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画において、科目ごとの授業の到達目標を示すとともに、試験実施方法および成績評価方法・基準について明示している。</p> <p>また、「愛知学院大学の単位認定及び成績評価に関するガイドライン」を策定し、単位数と学習時間についてや試験の形態、学則第9条に定める成績評価基準等を最上位評価の指針と共に明記している。</p> <p>http://www.agu.ac.jp/life/rules/seiseki-guideline.pdf</p> <p>以上のことから、本学では適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与えている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標として用いる GPA 算定式を「愛知学院大学 GPA 制度に関する内規」に定め、適切に運用している。</p> <p><GPA 算定式></p> <p>学期 GPA については、各学期において評価された成績評価を基に、次の式により算定している（計算値は小数第 4 位を四捨五入し、小数第 3 位までを表示）。</p> <p>「学期 GPA = (当該学期の履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の総和 / 当該学期の履修登録科目の合計単位数」</p> <p>総合 GPA については、在学中の全学期に評価された成績評価を基に、次の式により算定している（計算値は小数第 4 位を四捨五入し、小数第 3 位までを表示）。</p> <p>「総合 GPA = (在学全学期の履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の総和 / 在学全学期の履修登録科目の合計単位数」</p> <p>また、GPA の活用方法については、「愛知学院大学 GPA 活用に関する要領」を定め、公表している。</p> <p>http://www.agu.ac.jp/life/rules/gpa2.pdf</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.agu.ac.jp/life/rules/gpa.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>●卒業の認定方針（具体的な内容）</p> <p>各学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>なお、大学全体のポリシーとしては、以下の 5 つの能力を挙げている。</p> <p>① 多様な価値観をもつ人々と積極的に意思疎通のできるコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>② 幅広い教養を身につけている。</p> <p>③ 社会の種々の課題を発見し、情報を収集して、論理的に分析、思考し、解決することができる。</p> <p>④ 各学部・学科が求める専門分野に関する高度な知識・技能を修得している。</p> <p>⑤ 愛知学院大学の建学の精神を修得している。</p> <p>●実施状況について</p> <p>各学部のディプロマ・ポリシーに則り、定められた学習成果を満たし、かつ卒業に必要な単位数を修得（前述の卒業要件に該当）した場合に学部長会、代表教授会での承認を経た後、卒業を認定している。</p> <p>(https://www.agu.ac.jp/guide/data/faculty_certification_criteria.html)</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
財産目録	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
事業報告書	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
監事による監査報告(書)	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人愛知学院 事業計画書 対象年度:令和2年度)
公表方法: www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
中長期計画(名称:学校法人愛知学院中長期計画書 対象年度:令和2年度より)
公表方法: www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.agu.ac.jp/guide/self_assessment/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.agu.ac.jp/guide/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部 (宗教文化学科、歴史学科、英語英米文化学科、日本文化学科、グローバル英語学科)
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf) (概要) 文学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。
<u>○文学部宗教文化学科</u> 宗教学・仏教学・禅学に関する専門的な知識を身につけ、調査・研究・発表のできる教育の推進、宗教の学びを通じて、さまざまな価値観を理解し、グローバルな視野に立って社会に貢献できる能力を養成すること。
<u>○文学部歴史学科</u> ①「歴史」を通じてグローバルな視野を身につけること、②資料を広く調査・収集し、それらを分析できる力の育成、③そこで得た研究成果をさまざまな形で広く発信すること。
<u>○文学部英語英米文化学科</u> 英語の実践的運用能力やコミュニケーション能力を涵養し、同時に英語圏の社会や文化、ものの見方・考え方など異文化に関する広い知識の習得と、グローバル社会において貢献できる能力の涵養。
<u>○文学部日本文化学科</u> ①文化探求現場主義をモットーに、現実即した情報を収集する能力の養成、②日本文化の学際的研究を通して、学生自らが問題を発見・追究・解決する能力の養成、③日本文化の特質を国際社会に向けて発信できる人材の育成。
<u>○文学部グローバル英語学科</u> 職業分野に応じた実務的な英語運用能力 (ESP: English for Specific Purposes) を身につけさせるため、「国際ビジネス」「観光・航空」「通訳・翻訳」「英語教員養成」の 4 つの専門モデルを設置し、各専門分野で必要とされる知識・技能・英語力・汎用的能力を養成すること。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf) (概要) 文学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。
<u>○文学部宗教文化学科</u> 宗教文化に関する教育と研究を通じて養われた広い視野でグローバル社会に対応し、現代社会を生きぬく智慧と思いやりのある人間性を兼ね備え、社会に貢献できると判定した者に、学位を授与します。 ①宗教文化の理解を中心として、人間を取り巻く自然・社会・文化についての幅広い教養を身につけている。②多様な宗教文化への理解と柔軟性のある対応力を備え、様々な価値観や思考法をもつ人々と積極的にコミュニケーションができる。③宗教文化に関する様々な課題を発見し、基礎的な文献を読み解く文献学的研究やフィールドワークにより、自律的かつ創造的に研究できる。④宗教学、仏教学、禅

学に関する高度かつ専門的な知識・技能を有し、それを実践に生かすことができる。⑤卒業論文の作成で、選定段階での課題発見力、資料や参考文献の探索を通しての情報収集力、論文執筆の過程での論理的思考や分析力・表現力を修得し、考察・研究の成果を口頭および文書で的確にプレゼンテーションできる。

○文学部歴史学科

必要な修業年限を満たし、学科での教育課程の集大成として位置づけ8単位を付与する卒業論文をはじめとして、所定の単位を修得し、かつ本学科が教育上の目的とする以下の5点の力を備えると認められた者に、学位を授与します。

①文献・資料の分析・活用法の修得、②論理的思考の訓練、③現代的問題へのアプローチ、④世界史的・多角的な視野と人間性の育成、⑤学術的な卒業論文の作成

○文学部英語英米文化学科

以下の2つの能力を客観的・厳密に評価し、所定の単位を修得した者に学士（文学）の学位を授与します。

①英語圏の人々と自由にコミュニケーションができる英語運用能力を身につけている。②英語圏の人々の言語・文化的背景を深く理解できる幅広い視野を身につけている。

○文学部日本文化学科

広い教養と深い専門知識を修得し、社会の諸側面において自らのなかに課題をみつけ、探求していく姿勢、理論的思考と的確な判断力、社会の変容に対応できる力を身につけた人に学位を授与します。

【知識・理解】(1) 日本文化・異文化に関して説明することができる。(2) 日本社会の諸現象を通時的・共時的に論じることができる。【汎用的能力】(1) 数量的に示された文化的・社会的事象を説明することができる。(2) ITC（情報通信技術）を用いて多様な情報から適切な情報を収集し、発信することができる。(3) 知識や情報を利用して、問題を解決することができる。【態度・志向性】(1) 自己の権利と義務を適正に行使することができる。(2) 社会の発展のために積極的に関与することができる。(3) 卒業後も自律・自立して学習することができる。【総合的な学習経験と創造的思考力】(1) これまでに獲得した知識などを活用して、課題を解決することができる。(2) これまでの学習体験から、自ら新たな課題を立てることができる。

○文学部グローバル英語学科

所定の期間在学し、学科の人材の養成・教育研究上の目的に沿って設定した授業科目を履修、卒業に必要な単位を修得し、さらに卒業研究・論文を作成した者に対し、特に卒業研究・論文の内容、修得した科目の内容、専門ゼミでの取り組み結果等を総合的に勘案し、下記の能力を備えていると判断された場合には、学位が授与されます。

【知識・理解】実用的で専門的な英語力。グローバル社会で求められる政治・経済・社会に関する一般的教養や専門知識、多文化・異文化に関する知識や理解。【汎用的技能】グローバル社会で求められる英語でのコミュニケーション能力。グローバル社会での問題を発見し、問題解決に必要な幅広い情報や知識を収集、複眼的に分析、整理して、表現し、問題を解決できる能力。【態度・指向性】自らを律する自己管理能力、思いやりの心を持って他者と接し、他者と協調、協働できる能力。国際社会の一員としての責任と自覚をもち、グローバル社会の規範・規律を尊重し、国際社会の発展のために貢献できる能力。【総合的な学習経験と創造的思考力】グローバル社会を生き抜くために、物事に主体的に取り組み、これまでに獲得した知識・技能、態度等を総合的に活用、適用して、自らが立てた新たな課題を解決する能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)

(概要)

文学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○文学部宗教文化学科

【教育内容】

①宗教学・仏教学・禅学の3つの専門分野の学びを通し、本学の建学理念である「行学一体・報恩感謝」を具現化し、豊かな人間性を涵養する。②1年次の「基礎セミナーⅠ」で、学生は「読む・書く・話す・聞く」といった大学教育に必要な基礎的能力を身につける。③2年次の「基礎セミナーⅡ」で、学生はキャリア形成に必要なスキルを身につけ、大学で学ぶ意義と社会人として働く意義を明確に理解する。④「地域宗教文化Ⅰ―Ⅱ」で、学外でのフィールドワークを実施する。学生は自発的に問題を発見し、仲間と協働して行動する力を身につけ、学外の社会とつながる経験をする。⑤「教養教育科目」と連携することにより、学生は専門知識を補完する幅広い教養を身につける。⑥3年次以降の演習科目（ゼミナール）で、宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門的な学びを深め、学位取得に必要な知識や技能を身につける。

【教育方法】

①アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生による主体的・能動的な学修を奨励する。②学生の「個人カルテ」を作成し、学科の専任教員全員が、学生の現状把握と学修意欲の促進に努める。③主体的な学修活動を促すため、学生による各授業の「振り返り」と半期ごとの教育成果の「振り返り」を実施する。また、定期的に授業プログラムの「振り返り」をおこなう。

【教育評価】

各科目の到達目標に応じた学修成果を多面的に評価する。演習科目では、グループディスカッションやプレゼンテーションにより、能動的な学修態度を高く評価する。

○文学部歴史学科

【教育内容】

2年次から日本史・東洋史・西洋史・イスラム圏史・考古学の5コース制のもと少人数ゼミを中心として、学生のアクティブ・ラーニングを重視した教育を行う。また教養教育科目から専門教育科目へスムーズな移行をはかり、専門教育科目においては専門基礎科目から専門一般科目および選択科目へ、そして集大成としての学術的な卒業論文作成へと専門的知識や技能の習熟度に応じた段階的なカリキュラムを編成する。また専門の枠をこえて世界史的で多元的な視野や幅広い教養を養成するために、教養教育科目や選択科目を適切に設定する。

【教育方法】

①文献・資料の分析・活用の修得を主要内容とする科目群:歴史学・考古学の文献や資料の探索、適切な取り扱い、分析・解釈、保存法等を学ぶため、2～3年次において専門一般科目として、ゼミを中心とした必修科目である基礎講読Ⅰ・Ⅱ・専門講読Ⅰ・Ⅱや、考古学基礎実習・考古学専門実習、選択科目の講義として古文書学Ⅰ・Ⅱを開講する。またゼミにおいて資料所蔵機関などで実習やフィールドワークを行う。②論理的思考の訓練を主要内容とする科目群:設定した課題について、文献から学説を整理し、資料などから情報を収集して、自らの考えを論理的にまとめる能力を獲得させるため、学生は2年次からコース・少人数ゼミに所属し、発表やディスカッションなどの学生主体のアクティブ・ラーニングをとおして歴史研究を

実践する。2年次には基礎購読Ⅰ・Ⅱ、3年次には基礎演習Ⅰ・Ⅱを、4年次には専門演習を必修科目として履修する。③現代的問題へのアプローチを主内容とする科目群:2年次には専門基礎科目として史学概論Ⅰ・Ⅱや考古学概論など歴史学・考古学の研究方法に関する科目を開講し、専門課程への導入を早期に行うなかで、現代社会諸問題と歴史学の関係について考えさせる。また2年次から専門一般科目として特殊講義、3年次から特殊研究といった高度な専門知識を学ぶ講義科目を設定し、多様な学説や歴史観について学ぶことで、現代社会の諸問題の本質を歴史的に理解させ、未来を展望する能力を高める。④世界史的・多元的な視野と人間力の育成を主内容とする科目群:専攻するコース・ゼミの枠をこえて、世界史的・多元的な視野や人間的な共感をもって歴史を理解できるように、1年次では教養科目とともに専門基礎科目として5コースの内容の導入である概説を必修科目として開講する。また3年次では専門基礎科目として国際関係史Ⅰ・Ⅱや東西交渉史Ⅰ・Ⅱといった学祭的科目も選択必修の専門基礎科目として設定する。2年次以降も専攻するコース以外の専門一般科目の講義科目の履修や選択科目の履修により、世界史的で多元的かつ相互交流的な歴史の見方を修得できる。⑤学術的な卒業論文の作成:4年次に専門演習を必修科目として設定する。ゼミでは発表やディスカッション、レポート提出などを通して、卒業論文で専門的に取り組むべきテーマが明確になるようにし、教員の個別指導も交えて、学術的な卒業論文を作成し所定の期間に提出する。

【教育評価】

教育目標に応じた学修成果については、定期試験のみならず多様な試験により多面的に評価する。とりわけゼミにおいては、発表やレポートにより到達度を学生本人が確認できるようにする。また集大成としての卒業論文については、文献や史料を適切に取り扱って論理的に論文を組み立てているか、学術的な内容・形式を備えているか、口頭試問や発表会等において評価する。

○文学部英語英米文化学科

【教育内容】

①1年次から2年次の教養科目を通じて教養豊かな人格を涵養します。②1年次から3年次の英語必修科目を通じて英語の基礎力を涵養します。③英語と英語圏諸国の文化を同時に学ぶ外国人教員による科目「Culture through English」では、英語圏文化の特徴、日本文化との相違について英語を通じて理解し、自らも発信できる英語運用能力を涵養します。④英語圏社会での体験学習などを通じて、異なる価値観の人々の心情に共感できるメンタリティーを涵養します。⑤2年次から4年次の専門科目では、アメリカ文化、イギリス文化、英語圏文化、英語研究の各分野の幅広い専門的知識を涵養します。⑥3年次から4年次の演習科目（ゼミナール）では、専門科目で学んだ専門的知識にもとづいてさらに特定のテーマを定めて探求します。

【教育方法】

①アクティブ・ラーニングなど実践的な教育方法を導入し、能動的な学習を奨励します。②多様な講義科目を通じて豊富な知識の獲得を推奨します。③演習科目（ゼミナール）では、自ら選んだテーマについて深く調査研究し、それを卒業論文としてまとめるなど、主体的な研究を推奨します。

【教育評価】

各科目の到達目標に応じた学修成果を多面的に評価します。

○文学部日本文化学科

【教育内容】

①日本文化学科では、日本文化の諸領域のなかに自ら課題を立て、それを解決で

きる能力を養成します。②日本文化学科の教育課程編成・実施の方針に沿って、学び、探求する力を養うカリキュラムを用意しています。

【教育方法】

①日本文化の総合的理解を目指して、「言語」・「文学」・「思想と芸術」・「社会と民俗」の4つの領域をもうけています。これら4つの領域では、それぞれ1群・2群・3群と、入門的な内容から、専門性の高い科目まで段階的に配置して、学生が無理なく各学問領域を理解できるようにカリキュラムを構成しています。②日本文化学科のモットーである「文化探求現場主義」に基づき、1年次には美術館や文化施設の見学、陶芸体験、そば打ち体験、雅印や香袋の作成などの体験プログラムを用意しています。2年次には広領域特講群を活用し、茶華道等の実践的な日本文化の理解を進めます。③3年次にはゼミの研究領域に応じて、国内外における文化的諸事象の体験・調査を行い、その成果についての議論を通して文化理解を深めます。4年次にはこれまでの学習の集大成として、ゼミ指導教員のもと、卒業論文の執筆を行います。④書道文化に関する講義・実習科目を充実させ、書道教員免許の取得を可能とする体制を整えています。また、日本語・日本文学に関する講義科目を充実させ、国語教員免許の取得を可能とするカリキュラムを設定しています。

【教育評価】

①日本文化を理解するために必要な知識に関しては、これを修得したかどうかを筆記試験を通してはかり、評価を行います。②文化的諸事象の体験や調査などアクティブ・ラーニング系の科目に関しては、レポートや討論を通して教員が客観的に評価を行います。③4年間の集大成として卒業論文を提出し、主査と副査の口述試験を通して評価を行います。

○文学部グローバル英語学科

【教育内容】

①「教養教育科目」で、学生は大学教育を受けるために必要な基本的なアカデミックスキルおよび様々な学問分野に関する幅広い教養を身につけます。②英語技能科目で、実用的かつ専門的な国際コミュニケーション・ツールとしての英語運用能力を身につけます。③英語技能科目および専門科目で、幅広い国際的教養や高度な専門的知識を持ち、国際的視野に立って何事にも対処しうる思考能力を身につけます。④産学連携プログラムや地域連携プログラムへの参加を通じて、国際社会に貢献する「ホスピタリティ（おもてなしの心）」を涵養します。

【学年ごとのカリキュラム内容】

1年次は、「教養教育科目」と連携することにより、学生は専門知識を補完する幅広い教養を身につけます。専門教育科目においては、英語の「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つのスキルを養う科目を中心に学習します。特に英語母語話者の英語に積極的に触れる機会を多く設けます。さらに加えて、TOEICやTOEFL関連の科目、異文化理解入門、基礎ゼミを配し、レポートや論文の書き方の指導、異文化理解の基礎的能力養成を図ります。2年次も引き続き「教養教育科目」と連携を深め、より幅広くかつ深い一般教養を身につけます。「専門教育科目」では、英語の4つのスキル科目に加えて、英文法、専門科目の入門・基礎科目を配するとともに、2年次夏季休暇中に必修科目として海外研修を実施します。すべての学生は3つの海外研修コースから自分の関心や将来の進路に応じて1つのコースを選択し、ホームステイや異文化体験を通じて英語力の向上を図るとともに、学生主体のアクティブ・ラーニング・プログラムに積極的に関わることにより、入学以降の英語学習を振り返り、自己の学修を将来の進路と結び付け、今後の英語学習の一層の動機づけと方向づけにつなげます。3年次では、「国際ビジネス」「観光・航空」「通訳・翻訳」「英語教育」の各分野の専門的な知識とスキルを修得します。英語で学

ぶ北米、イギリス、オセアニア、日本の文化事情科目、専門科目、専門ゼミ I を配して、学生が希望するコースモデルの専門科目を履修し、専門分野での英語能力向上を図ります。4年次では、卒業研究・論文作成のために求められる英語能力科目、専門ゼミ II、卒業研究・論文の指導等を通じて、4年間の集大成を図ります。特に卒業研究・論文の作成を通して問題探求能力、分析能力、表現能力の習得を図ります。

【教育方法】

①学習面・学生生活全般へのサポート：教養部のアドバイザーとの連携のもと、学科の専任教員全員が学生の学習面および学生生活全般についてサポートし、学修意欲の促進に努めます。特に1年次の基礎ゼミ担当教員が学生一人ひとりと面談を行い学生の現状を把握し、学科教員間で情報を共有します。2年次は学科のアドバイザーである Study Abroad 担当教員が、3・4年次はゼミ教員がサポートを継続します。② TOEIC の活用：本学科では、1年次と2年次に TOEIC 受験を義務付けるなど、学外の英語外部試験を積極的に活用します。TOEIC の平均取得スコアの向上を学科の目標として英語力の向上を図ります。段階的な目標として、1年次は450点、2年次は550点、3年次の終わりには730点以上を設定しています。（1年次は入学時の10%、2年次は20%、3年次の終わりには30%以上のスコアの向上を目指します。）③多様な授業形態：授業形態は授業目標や内容により多様であるが、アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が可能な限り積極的に授業に取り組めるようにします。主体的・能動的な学修を促す教育方法を実施し、学生に学修成果の「振り返り」を奨励します。ピア・サポート体制などを活用した学生の自発的な学修環境の充実に努めます。自ら問題を発見し、他者と協働して行動できるよう、学外の体験学修を推奨します。

【教育評価】

到達目標に応じた学修成果を多面的に評価します。定期試験、レポート、ルーブリック評価、小テスト等の直接的な方法、段階的な英語力評価、授業の発表、学習行動調査等の間接的な方法、あるいは問題解決型演習等による成果物の評価、さらには学習履歴の記録、振り返り、学習デザイン、国家試験取得等の多面的な評価を奨励します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf>)

(概要)

文学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。

○文学部宗教文化学科

愛知学院大学のアドミッション・ポリシーにもとづき、宗教文化を学問的に研究することで、人類の遺産である宗教の歴史・文化・世界観を学び、同時に現代人が直面している諸問題に取り組む智慧と主体性を探求する入学者を選抜します。

①ひろく世界の宗教文化を学び、多様な価値観・世界観があることを理解し、多様な人々と共生し協働しようとする人。②建学の精神を身につけ、宗教者として地域や社会に貢献したい人。③将来、自らの職業や活動を通じ人々と交流し、社会に貢献したい人。④以上の学びを可能にするための基礎学力、とくに日本語読解力、表現力を備えて、積極的に学ぼうとする意欲のある人を、多様な入試種別を設けて、それぞれの入試ごとに選抜する。

(1) 一般入試：国語・英語・社会などの基礎学力がある人を求め、宗教文化を学ぶ意欲と適性を試験によって判定する。(2) A0 入試：宗教文化を学ぶ明確な意思をもつ人を求め、学業以外の顕著な実績、資格を将来の学修につなげる意欲と創造

力を、面接試験と書類審査によって総合的に判定する。(3) 公募制推薦入試 A：高等学校で学ぶべき基礎学力を習得した人を求め、課題文設問型の試験によって、日本語読解力と表現力を、国語・英語の適性検査によって学修の前提となる思考力・判断力・表現力を判定する。(4) 公募制推薦入試 B：国語・英語の適性検査によって、学修の前提となる思考力・判断力・表現力を判定する。

○文学部歴史学科

愛知学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、かつ歴史学科の教育上の目的にそって求めるのは以下のような人です。

第一に、歴史を学問的に研究すること、すなわち文献や資料を収集・整理し、歴史学的手法により分析し、論理的に解釈することを通して、歴史の実態や本質を明らかにすることに学力・適性のある学生です。第二に、現代社会の諸問題について幅広い関心を持ち、歴史学的手法を駆使してそれらを理解し解決をめざすことに意欲のある学生です。歴史学の修学・研究に関しては、意欲・知識・言語能力・思考力・コミュニケーション力など多様な力が必要であることから、以下のような多様な入試区分を設け、入学者を選抜します。

①一般入試では、資料・文献の読解や論文叙述に必要な言語能力および大学で学ぶ歴史学の基礎となる知識、人文科学において必要な論理的な思考力を有する学生を求めます。②AO 入試では、歴史学の修学に必要な論理的思考力や歴史を学ぼうとする意欲を有する学生を求めます。③公募制推薦入試では、高等学校等で学ぶべき基礎学力、論理的思考力や言語能力など歴史学の修学に必要な基礎力を有する学生を求めます。

○文学部英語英米文化学科

ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、以下に掲げる目的意識ならびに意欲、資質、能力を身につけた人物を求めます。

①世界共通語である英語の能力を高め、英語圏諸国の文化事情を積極的に学ぶことに意欲的な人。②英語、社会、国語の基礎的な学力があり、新聞等のメディアを通じて社会情勢に関心を持ち、その理解に努める人。また特に実用英語検定準2級水準以上の英語力を身につけた人。③将来、自分の職業や生活においてさまざまな社会への貢献をすることに意欲的な人。

○文学部日本文学文化学科

「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4つの領域から、多角的に日本文化について考え、学ぶ意欲のある学生の入学を期待しています。また、卒業認定・学位授与の方針 (DP) 及び教育課程編成・実施の方針 (CP) に定める教育を受けるのにふさわしい、以下にあげる学生を求めます。

①高等学校での各教科、特に国語・社会・英語についての基礎学力を有し、大学で発展的内容を学ぶ意志のある学生を求めます。②正確な日本語の読み書きの基礎力をもつ学生が望ましいと考えます。一例として、漢字検定準2級程度の学力を有する学生を求めます。③他者の話の要点を捉えてメモし、考察の材料にできる能力は、大学の講義を受ける上で必須です。さらに、身の回りの文化や現象に、「なぜ?」「どうして?」という自分なりの疑問を持ち、答えを探ろうとする姿勢をもつ学生を求めます。

○文学部グローバル英語学科

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、以下の人材の入学を求めます。そのために当学科では、大学が実施する各種入試の特徴を踏まえて、試験成績、願書情報等を考慮の上、求める人材の選別に努めます。

①グローバル社会が求める英語運用能力を備え、円滑で豊かなコミュニケーション

ン能力を身につけようという意欲や向上心を持っている人。学科カリキュラムに鑑み、入学時は各人が実用英語検定準2級取得あるいは同等の英語力を有していることが望ましい。②グローバル社会における多文化や異文化に関する知識、ホスピタリティ力（思いやり力）、情報収集力、論理的思考力、問題解決力などの「汎用的能力」を身につけたい人。③グローバル社会における倫理観、自己管理能力、グローバル市民としての社会的責任等を主体的に協働して学ぶ意欲と熱意を持っている人。

学部等名 商学部商学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)
(概要) 商学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 <u>○商学部商学科</u> 「ビジネス・ヒューマン・バリュー Business Human Value」の創造。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)
(概要) 商学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 <u>○商学部商学科</u> 下記の条件を満たす者に学士（商学）を授与します。 (1) ビジネスの現場において必要不可欠とされる広範な知識や技能を修得している。(2) 流通、マーケティング、国際ビジネス、会計、金融、情報通信技術、ビジネスと情報との関わりといった、各人の専門領域における深い知識や優れた技能を身につけている。(3) 修得した専門的な知識や技能を用いて、ビジネスの現場において自ら問題を発見し、それを解決することができる。(4) ビジネスの現場における問題解決に必要なコミュニケーション能力を身につけている。(5) 専門的な知識や技能のみならず、幅広い教養を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)
(概要) 商学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 <u>○商学部商学科</u> ①「専門教育科目」では、専門領域の如何にかかわらず、ビジネスの現場において必要不可欠とされる知識や技能を修得するための「基礎科目」を設ける。②各人が自らの専門領域における知識や技能を効率的、かつ効果的に身につけられるように、「流通・マーケティング」、「会計・金融」、「ビジネス情報」の3つのコースを設定する。また、各コースでは、当該専門領域における基礎的な内容を修得するための「基幹科目」、およびより専門的で高度な内容を修得する「応用科目」を設定する。③ビジネスを「頭で理解する」だけでなく、ビジネスの現場における主体的な問題発見、および問題解決の能力を身につけるために、「演習科目」を設定する。④「教養教育科目」では、「宗教学」をはじめとした、幅広い知識を修得するための、多彩な科目を設ける。⑤「キャリア教育科目」では、進路に対するモチベーションの向上や職業的知識の修得のため、関連する科目を設ける。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf)</p>
<p>(概要) 商学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。</p> <p>○商学部商学科 本学、および本学部の「卒業認定・学位授与の方針」(DP)と「教育課程編成・実施の方針」(CP)に定める教育を受けるために必要な、以下のような目的意識や意欲、資質、能力を身に着けた人物を求めます。</p> <p>①高等学校等の教育課程において、国語・数学・理科・社会・英語を学習し、商学を学ぶための基礎的な学力を有している人。②ビジネスに関する各領域(流通、マーケティング、国際ビジネス、会計、金融、情報通信技術、ビジネスと情報との関わり)等の専門分野に興味・関心がある人。③ビジネスに関する専門分野を学び、積極的に自分なりの問題意識を持ち社会における問題点を明確にし、その解決方法を考えられる人。④将来はビジネスについて専門的な知識や技能をもって、社会に貢献したいと考えている人。</p>

<p>学部等名 経営学部経営学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)</p>
<p>(概要) 経営学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○経営学部経営学科 ①新しいマネジメント理論と実践を踏まえた教育研究、②産学連携による実践型の教育研究、③実習方式を積極的に取り入れた実践型の教育、④1つの専門領域に偏らない学際的な知識・技術をもった人材の育成に寄与する教育研究、⑤変化革新への対応能力や問題発見解決能力の向上を促す教育研究。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)</p>
<p>(概要) 経営学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○経営学部経営学科 「組織マネジメントコース」、「生産マーケティングコース」、「会計コース」の3つから、学生が選択した履修コースにおける理論と実践についての主体的な学びを通して、以下に挙げる知識・技能をどう育んだかを適切に評価して、学位を授与します。</p> <p>(すべての学生に求められる能力)</p> <p>①情報に対する高い感度と異文化への深い理解をもって、多様な価値観を持つ人々と積極的に意思疎通のできるコミュニケーション能力。②社会の種々の課題を発見し、関連する情報の収集・分析・思考を通じて、解決を模索できる知識・技能。</p> <p>(組織マネジメントコースを履修した学生に求められる能力)</p> <p>①組織、マネジメントに関する諸問題を把握・分析し、解決方法を見出すことのできる知識・技能。②将来経営者または管理者になった際に求められる、必要な経営資源を適切に管理できる知識・技能。</p>

<p>(生産マーケティングコースを履修した学生に求められる能力)</p> <p>①開発、生産、物流、販売に関する諸問題を把握・分析し、解決方法を見出すことのできる知識・技能。②自ら新たな事業を企画し運営できる知識・技能。</p> <p>(会計コースを履修した学生に求められる能力)</p> <p>①会計に関する諸問題を把握・分析し、解決方法を見出すことのできる知識・技能。②会計関連の資格取得等を通じ、社会に貢献できる知識・技能。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学HP及び履修要項に掲載している。</p> <p>○経営学部経営学科</p> <p>【教育内容】</p> <p>経営学を初めて学ぶ人が、経営学に関する多様な科目を自主的に選択することは難しいことから、系統的に体系だった学習ができるように、経営学部では下記に配慮し、カリキュラムを設定しています。</p> <p>①幅広く多様な専門科目を配し、それらを「基礎科目」と「応用科目」に分けています。②バラエティーに富んだ「応用科目」を体系的に選択できるように、「組織マネジメントコース」、「生産マーケティングコース」、「会計コース」という3つの履修コースを用意しています。③マネジメント能力の実践的側面の強化を目的とした「実習科目」を設置しています。「実習科目」では、外部から企業経営者を講師として招くなどして、現場からの発想にもとづいた生きた経営学を学ぶことができます。④資料や情報を集め、それらを整理・分析し、報告するなどの経営学の基礎的な力を身につけるための「基礎演習科目」と、専門分野を中心に少人数で議論したり知識を発展させたりすることのできる「専門演習科目」を配置しています。⑤グローバルな世界で活躍するためには英語が必須であることから、英語習得のための科目「ビジネス英語」を配置しています。⑥将来のキャリア開発を支援するため、キャリア支援科目を配置しています。⑦上記に加えて、地域連携センターが提供する「地域連携科目」を受講することで、将来のコミュニティ・リーダーに求められる能力を磨くこともできます。</p> <p>【3つの履修コースの概要】</p> <p>1. 組織マネジメントコース「組織マネジメントコース」では、主に次の4つの点について学んでいきます。</p> <p>①組織を作り上げ、それらを調整し、動かす仕組みや方法について理解を深めます。②組織内外における人びとの関係づくりと、組織においてヒトが成長していくにつれて生じる役割の変化と管理について学びます。③組織を取り巻く環境の変化に対し、現実に組織をどのようにマネジメントし成果を上げていくかについて、実践的な理解力を身に付けます。④環境問題や技術革新、企業倫理のような現代的課題を取り上げ、そこで組織が成果をあげるためのマネジメントについて学びます。</p> <p>2. 生産マーケティングコース「生産マーケティングコース」では、企業の内部・外部におけるモノの流れにしたがって企業経営のメカニズムを学びます。</p> <p>①開発・生産・物流・販売というモノの流れを、体系的に学びます。②経済のグローバル化に対応した国際的な企業経営のあり方を学びます。③新たな市場の可能性を拓く新事業の企画・運営の方法を学びます。</p> <p>3. 会計コース 社会ではいかなる活動を行うにも資金が必要となります。資金を適切に管理できなければ、その活動実体を存続させることは不可能です。資金の適</p>

<p>切な管理に関する様々な知識や技法を習得するため、「会計コース」では以下の3点をステップ・アップ方式で学習を進めていきます。①資金の調達・運用とその結果の計算・記録方法を学びます。②記録されたデータから財務情報を作成・表示する方法を学びます。③作成された財務情報を企業経営に活用する方法を学びます。</p> <p>【教育評価】 到達目標に応じた学修成果を多面的に評価します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf)</p>
<p>(概要) 経営学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学HP及び入試要項に掲載している。</p> <p>○経営学部経営学科 大学の建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」のもとに、下記のような能力・関心を持った人を受け入れたいと考えています。 ①高等学校等の教育課程における基礎的な知識・技能と、それに基づく思考力・判断力・表現力を身に付けている人。②現代の企業が直面する諸問題に対して興味を持ち、「ヒト(人事・労務)・モノ(生産)・カネ(会計・財務)・情報」といった経営資源を有効に活用する「知識」を身につけ、企業を効率的に運営するための「思考力」を養いたいと考えている人。③主体性をもって多様な人々と協働できる能力を身に付け、リーダーシップを発揮できる人間になりたいと望んでいる人。④将来、会計に関する資格(日商簿記、税理士、公認会計士)、金融に関する資格(ファイナンシャルプランナー、証券アナリスト)、情報処理に関する資格(情報処理技術者)等を取得し、専門的知識を活かして社会に貢献したいと考えている人。</p>

<p>学部等名 経済学部経済学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)</p>
<p>(概要) 経済学部において策定した教育研究上の目的を大学HP及び履修要項に掲載している。</p> <p>○経済学部経済学科 経済学の基礎的および専門的な知識を幅広く学び、その実践的応用によって現代経済の構造変容の実態と新しい課題を自ら分析する力を身に付ける。そして、それらを基礎として問題の本質を的確に把握し、課題解決のための適切な方法を構想しうる透視力や洞察力を培うとともに、人間的共感と社会的公正を双軸とする豊かな経済社会の実現に寄与しうる幅広い教養を涵養すること。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)</p>
<p>(概要) 経済学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学HP及び履修要項に掲載している。</p> <p>○経済学部経済学科 経済学部にて所定の期間在学し、経済学部が定める科目分野ごとに卒業要件単位数をすべて満たし、教養教育科目、専門教育科目およびキャリア教育科目について所定の単位を修得するなかで以下の知識、能力を身につけた学生に対して、学士(経済学)の学位を授与します。</p>

①豊かな教養と汎用的基礎学力を身に付けている。(基礎的学士力：教養力、文化的理解力、理論的基礎力、語学的コミュニケーション能力、数量的理解力、ICT処理能力) ②幅広い経済学的知識を基盤として課題を発見し、学びの道筋を構想することができる。(基盤的学士力：問題発見力、論理的思考力) ③経済学の多面的な知見と多角的な分析方法を用いて課題解決を導くことができる。(発展的学士力：応用的分析力、協働的実践力、問題解決力) ④学びの成果の実践的な応用と総合的な活用によって経済社会の在り方を構想することができる。(総合的学士力：実践的応用力、倫理的判断力、総合的構想力、生涯学習力) ⑤将来の進路に向けて計画的にキャリア形成を実践することができる。(実践的学士力：基礎的キャリア形成力、社会人基礎力、応用的キャリア形成力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)

(概要)

経済学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学HP及び履修要項に掲載している。

○経済学部経済学科

1. 幅広い教養の修得を目指す教養教育カリキュラム

専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、豊かな人間性の涵養を目的として、以下のカリキュラムにもとづいて教養教育を展開します。

①宗教学：本学の「建学の精神」の理解と実践のための必修科目。②教養基幹科目：学びの方法の修得を目的とした初年次の「教養セミナー」および人文系、社会系、自然系、主題系からなる科目。③外国語科目・海外事情科目：語学を通じて異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を修得することを目的とする科目。④健康総合科学科目：各種スポーツの理論の修得と実践をとおして健康の自己管理能力を養う科目。

2. 体系性を重視した専門教育カリキュラム

ディプロマ・ポリシーにもとづく教育目標の達成に向けて、体系的なカリキュラムが編成されています。具体的には、以下のように専門教育科目を基礎科目、基幹科目、発展科目の三群に区分し、それぞれの目的と性格を明確に位置づけています。

【基礎科目】汎用的基礎学力と経済学の理論的基礎を培う科目、【基幹科目】経済の諸課題の発見を可能とし、専門分野の学びへの導入を図る基幹的な科目、【発展科目】多層的な視点からの応用的および実践的な学びをとおして学びの総合へ導く科目。

さらに、以上の3つの科目群の学びを基礎、応用、実践、総合の4つの段階に分けて、専門分野の学びの成果を段階的に積み上げながら獲得できる体系性を考慮したカリキュラムとなっています。

①基礎：経済理論の基礎を学ぶ中で、経済の諸問題にアプローチするための基本的な考察を行い、経済学的な思考を身につけます。また、実践的な英語力や数学的な分析手法、データ収集と情報処理の技法など、経済学の基盤となるスキルを修得します。②応用：基礎レベルで学んだ知識を基盤として経済学の専門分野を学ぶ中で、探求すべき課題を発見し、それぞれの専門分野に関する論理的思考力、応用的分析力を身につけ、現代経済の理解を深めます。③実践：基礎、応用と段階的に積み重ねた経済的知見を、企業や行政の実務とのフィードバックによって検証するとともに、さまざまな経済活動を体験的に学ぶ中で実践的応用力を磨きます。④総合：演習の場において文献講読、プレゼンテーション、討論などを通じて専門研究

を深め、4年間の仕上げとして卒業論文をまとめます。課題設定、資料収集、仮説検証、結論導出という論文作成過程の中で問題解決力と総合的構想力を培います。

3. 進路別コア履修モデル

卒業後の進路を視野に入れて計画的に履修を進めることができるように、進路別にコアとなる授業科目を選別した履修モデルを設けています。学生は、この進路別コア履修モデルを指針として、将来の進路にとって重要である科目分野を重点的かつ体系的に履修することができます。進路別コア履修モデルは、とくに以下の5分野への進路について設定されています。

①企業の中心的部門において、経済学の各領域をバランスよく熟知し、経済事象と経済政策を正しく解析する能力をもち、企業戦略の立案や展開に能動的に取り組むことができるビジネスパーソン。②国あるいは地方公共団体において、経済社会に方向性を与えるべく経済政策を立案し、執行する公務員。③地域社会の福祉、医療、環境などの分野において、将来の社会の在り方に関する明確な構想力をもって実践活動に従事し、地域社会の発展をリードできる職業人。④金融政策、金融システム、地域金融の役割を正しく理解し、地域の経済状況と地域特性を把握して、その活性化に資する金融業務を遂行できる金融ビジネスパーソン。⑤民間の調査研究機関において、専門的な立場から内外の経済を調査・分析し、具体的な政策提言を行うことができる専門的調査研究員。

4. 実践的なキャリア形成を支援するキャリア教育カリキュラム

就職に向けたキャリア形成の支援を目的として、キャリア教育科目を開講します。キャリア教育科目を履修することによって、希望する職業に就くための知見やキャリア・スキルを修得できるだけでなく、大学4年間の学びを将来の進路選択に向けて、いかに目的意識的かつ計画的に進めていくべきかについて、自ら考える機会をもつことができます。自己分析によって自らの個性、価値観、職業適性などについて理解を深め、他者と対話し、協働し、自己を表現する力を身につけることによって、キャリア形成の基礎力を修得します。さらに、実践的な社会人基礎力を磨くとともに、企業活動の最前線を見聞し、職業世界の多様性に接し、実際に就業を体験することによって、将来の進路を主体的に選択できる力を養うことができます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf>)

(概要)

経済学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学HP及び入試要項に掲載している。

○経済学部経済学科

以下のような学力、関心、目的意識をもった学生を受け入れる方針です。

①高等学校等で外国語、数学、国語、理科、地理歴史・公民を学習し、経済学を学ぶための基礎的な学力を有している人。②国内外の経済や社会の問題に幅広い関心を持っている人。③経済の仕組みを学んで経済政策の意味内容を理解できるようになりたい人。④グローバルな視野から地域経済の発展を担うビジネスパーソンを目指す人。⑤経済学的思考と方法を修得して新しい経済社会の在り方を追求したい人。⑥豊かな人間性を育て社会貢献のできる場で活躍したい人。

学部等名 法学部（法律学科、現代社会法学科）

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose01.pdf>)

<p>(概要)</p> <p>法学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○<u>法学部法律学科</u></p> <p>社会及び多様な文化に関する知識の理解、自己管理力・コミュニケーション能力・チームワーク力及び文章作成能力の獲得、「公正」「正義」に代表される法の精神の理解を通じた市民としての社会的責任の自覚のほか、特に、法律学の体系的知識の理解、事実を客観的に把握する能力・体系的論理的に思考する能力及び物事を公正に判断する能力の獲得。</p> <p>○<u>法学部現代社会法学科</u></p> <p>社会及び多様な文化に関する知識の理解、自己管理力・コミュニケーション能力・チームワーク力及び文章作成能力の獲得、「公正」「正義」に代表される法の精神の理解を通じた市民としての社会的責任の自覚のほか、特に、法律学・政治学の体系的知識の理解、現代的諸問題を発見する能力・複眼的視点に基づいて問題を分析する能力及び現実に即して問題を解決する能力の獲得。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○<u>法学部法律学科</u></p> <p>所定の期間在学し、以下の知識、能力、資質を身につけ、教養科目・専門科目・キャリア教育科目について所定の単位を修得した者に、学士（法学）の学位を授与します。</p> <p>1. 汎用的知識：社会及び多様な文化に関する知識を理解していること。2. 専門的知識：法律学の体系的知識を理解していること。3. 汎用的能力：自己管理力、コミュニケーション能力、チームワーク力及び文章作成能力を身につけていること。4. 専門的能力（法的判断能力）：事実を客観的に把握する能力、体系的・論理的に思考する能力及び物事を公正に判断する能力を身につけていること。5. 豊かな人間性：「公正」「正義」に代表される法の精神を理解し、また市民としての社会的責任を自覚していること。</p> <p>○<u>法学部現代社会法学科</u></p> <p>所定の期間在学し、以下の知識、能力、資質を身につけ、教養科目・専門科目・キャリア教育科目について所定の単位を修得した者に、学士（法学）の学位を授与します。</p> <p>1. 汎用的知識：社会及び多様な文化に関する知識を理解していること。2. 専門的知識：法律学・政治学の体系的知識を理解していること。3. 汎用的能力：自己管理力、コミュニケーション能力、チームワーク力及び文章作成能力を身につけていること。4. 専門的能力（法的・政治的諸問題の発見・解決能力）：現代的諸問題を発見する能力、複眼的視点に基づいて問題を分析する能力及び現実に即して問題を解決する能力を身につけていること。5. 豊かな人間性：「公正」「正義」に代表される法の精神を理解し、また市民としての社会的責任を自覚していること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)</p>

(概要)

法学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○法学部法律学科

1. カリキュラム編成

幅広い教養と法的素養をバランスよく身につけられるよう、教養科目と専門科目を設置する。また、キャリア・デザイン支援を目的とするキャリア教育科目を設置する。これらの科目において、論理的思考能力や高い倫理観などを育むことのできるカリキュラムを編成し実施する。殊に、専門科目においては、体系的な知識の修得のため、段階的かつ系統立った教育課程を編成する。そのため、1・2年次には基礎的かつ広範な学修、3・4年次には応用的かつ専門性の高い学修ができるカリキュラム設定を行う。また、キャリア教育科目を通じて、実社会における有用な知識の修得のため、現実の諸問題への対応能力を養成できる環境を整える。また、実社会における有用な知識の修得のため、現実の諸問題への対応能力を養成できる環境を整える。法律学科では、とりわけ法律学の体系的理解に基づく法的判断能力の育成に重点をおく。

2. 法律学科の特性

法律学科では、法律学の体系的知識を踏まえた法的判断能力の育成を目標とする。そのため、条文解釈・判例分析や制度論を学べる場や機会を多く提供することにより、体系的な教育を実施する。また、より専門性を高めるために「コース制」を採用し、希望する進路などに応じて「総合コース」「公法コース」「ビジネス法コース」の3つの選択肢（コース）を用意する。2年次以降は、選択したコースに応じた科目履修を求める。

3. 初年度教育の充実

大学での基礎的な学び方を身につけられるよう、初年度教育を充実させる。そのため、1年次には法学に関する種々の入門科目を設けるとともに、少人数制の基礎演習や教養セミナーを設置する。また、多様な外国語科目を設置することにより、言語能力の向上を図ると同時に、異文化への理解やグローバルな視野も育成する。

4. 少人数制の演習科目

個々人の法的判断能力を伸ばすのに適した少人数の演習科目を各学年に配置し、在学4年間を通して1人1人に行き届いた教育を実践する。そのため、1・2年次には「基礎演習」及び「教養セミナー」を、3・4年次には「専門演習」を配当する。これらの演習科目を通じて、法学教育のみならず、主体性、協働性やコミュニケーション能力・文章作成能力の育成なども含む包括的な指導を個別に行う。なお、教養セミナー及び専門演習においては、担当教員がアドバイザーとなるアドバイザー制度を設けることにより、学生生活全般にわたってサポートする。

5. キャリア支援

キャリア教育科目として、将来の進路を考え必要な知識やスキルを修得する「キャリア・デザイン」、産官民と連携して実践的な知識を学ぶ「産官民提携講座」、実際の職場で働く経験をする「インターンシップ」などのキャリア支援科目を設置する。また、法的素養はあらゆる職業の基礎となるため、各科目において、将来のキャリアに有用となりうる教育を取り入れる。

○法学部現代社会法学科

1. カリキュラム編成

幅広い教養と法的素養をバランスよく身につけられるよう、教養科目と専門科目を設置する。両科目では、論理的思考能力や高い倫理観などを育むことのできるカリキュラムを編成し実施する。殊に、専門科目においては、体系的な知識の修得

のため、段階的かつ系統立った教育課程を編成する。また、実社会における有用な知識の修得のため、現実の諸問題への対応能力を養成できる環境を整える。そのため、1・2年次には基礎的かつ広範な学修、3・4年次には応用的かつ専門性の高い学修ができるカリキュラム設定を行う。また、キャリア教育科目を通じて、実社会における有用な知識の修得のため、現実の諸問題への対応能力を養成できる環境を整える。現代社会法学科では、とりわけ法的・政治的諸問題の発見・解決能力の育成に重点をおく。

2. 現代社会法学科の特性

現代社会法学科では、法的・政治的諸問題を発見し解決する能力の育成を目標とする。そのため、現実の諸問題を法的・政治的観点から考える場や機会を多く提供することにより、実践的な教育を実施する。また、授業の履修や希望進路選択の参考となる「パッケージ制」を採用し、「公務員（公共行政）」「公務員（地域の安全・福祉）」「製造・小売業」「金融・保険」「サービス・通信・不動産」「地域づくり」「家族・福祉」「政治・マスコミ」「国際関連」の9つの選択肢（パッケージ）を用意する。2年次以降は、選択したパッケージを道案内とした柔軟な科目履修を求める。

3. 初年度教育の充実

大学での基礎的な学び方を身につけられるよう、初年度教育を充実させる。そのため、1年次には法学に関する種々の入門科目を設けるとともに、少人数制の基礎演習や教養セミナーを設置する。また、多様な外国語科目を設置することにより、言語能力の向上を図ると同時に、異文化への理解やグローバルな視野も育成する。

4. 少人数制の演習科目

個々人の法的・政治的諸問題の発見・解決能力を伸ばすのに適した少人数の演習科目を各学年に配置し、在学4年間を通して1人1人に行き届いた教育を実践する。そのため、1・2年次には「基礎演習」及び「教養セミナー」を、3・4年次には「専門演習」を配当する。これらの演習科目を通じて、法学・政治学の教育のみならず、主体性、協働性やコミュニケーション能力・文章作成能力の育成なども含む包括的な指導を個別に行う。なお、教養セミナー及び専門演習においては、担当教員がアドバイザーとなるアドバイザー制度を設けることにより、学生生活全般にわたってサポートする

5. キャリア支援

キャリア教育科目として、将来の進路を考え必要な知識やスキルを修得する「キャリア・デザイン」、産官民と連携して実践的な知識を学ぶ「産官民提携講座」、実際の職場で働く経験をする「インターンシップ」などのキャリア支援科目を設置する。また、法的素養はあらゆる職業の基礎となるため、各科目において、将来のキャリアに有用となりうる教育を取り入れる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf>）

（概要）

法学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学HP及び入試要項に掲載している。

○法学部法律学科

1. 求める人物像

法学部法律学科では、愛知学院大学のアドミッション・ポリシーのもと、以下に掲げる意欲や資質、能力等を有する人物を求めます。

①社会への強い関心を有し、法律学科で身につけた専門的知識・能力を活かして社会に貢献しようとする情熱を有する者。②物事を公正に考え、正義を尊び、他者に

共感する心を持っている者。③法的諸問題を体系的・論理的に分析する意欲を有する者。④高等学校等での国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科などの学習を通じて、法律学科での学修に必要な基礎学力、論理的思考力、知的素養を身につけている者。

2. 入学者選抜の方針

法律学科は、公平かつ多様な入学試験を実施することで、上記の意欲や資質、能力等を有する人物を選抜します。

○法学部現代社会法学科

1. 求める人物像

法学部現代社会法学科では、愛知学院大学のアドミッション・ポリシーのもと、以下に掲げる意欲や資質、能力等を有する人物を求めます。

①社会への強い関心を有し、現代社会法学科で身につけた専門的知識・能力を活かして社会に貢献しようとする情熱を有する者。②物事を公正に考え、正義を尊び、他者に共感する心を持っている者。③法的・政治的諸問題を実践的・主体的に探求する意欲を有する者。④高等学校等での国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科などの学習を通じて、現代社会法学科での学修に必要な基礎学力、論理的思考力、知的素養を身につけている者。

2. 入学者選抜の方針

現代社会法学科は、公平かつ多様な入学試験を実施することで、上記の意欲や資質、能力等を有する人物を選抜します。

学部等名 総合政策学部総合政策学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose01.pdf>)

(概要)

総合政策学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○総合政策学部総合政策学科

①現代社会を幅広く俯瞰できる教養と専門知識、②多様性への理解、③コミュニケーション力、④社会参加、⑤課題発見力、⑥課題解決のための技能、⑦総合的な知恵の獲得・達成。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)

(概要)

総合政策学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○総合政策学部総合政策学科

現代社会を幅広く俯瞰できる教養と専門知識、課題解決のための技能を修得し、以下の能力・資質を身につけていると判定したものに学位を授与します。

【多様性への理解】人種・性別・障害の有無などの外形的違いだけでなく、文化・価値観など多様性を理解し、相手の立場を尊重できる。【コミュニケーション力】積極的な意思疎通のできる開かれた心と相互理解を深めるためのコミュニケーション力を身につけている。【社会参加】社会の一員として様々な主体と協力し、主体的に問題解決に向けた行動を取ることができる。【課題発見力】客観的な情報を元に現状の問題を把握・分析し、解決へ向けた方向づけができる。【課題解決力】課題解決へ向けた計画策定、実施、評価、改善を遂行する力を身につけている。【総合的な知恵】現代社会を理解するのに必要な多分野にわたる知識をもち、物事を総

合的かつ実践的に判断していく知恵を獲得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)

(概要)

総合政策学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学HP及び履修要項に掲載している。

○総合政策学部総合政策学科

【教育内容】

①「教養科目」においては、現代社会に生きる人間にとって必要な教養を養成します。必修科目である「宗教学」をはじめ、選択科目として「教養基幹科目」である人文系、社会系、自然系、主題系の科目群、国際人として活躍するにふさわしい外国語能力の育成を目指した「外国語科目」、健康の価値と運動の楽しさを理解する「健康総合科学科目」、海外語学研修の実施に対応した「海外事情科目」を開講します。②「リテラシー科目」においては、政策・企画の立案・提言をする基礎的な能力を4つに分け養成します。これらのうち基本となるものを1・2年次の必修とします。(1)「言語リテラシー科目」は、実践的な英語および日本語での言語コミュニケーション能力の養成を目指します。(2)「情報リテラシー科目」は、ICT(情報通信技術)を情報収集・分析・とりまとめ・発表などの道具として自在に活用できる能力を身につけます。(3)「リサーチリテラシー科目」は、実態を明らかにし、原因を分析するための、社会調査や統計の知識・技術を修得します。(4)「プランニングリテラシー科目」は、課題解決のための政策や企画を立案するために、論理的な思考法や計画技術、合意形成のための技術を修得します。③「基盤科目」においては、政策・企画の立案・提言をするために必要な専門知識のうち、共通した基盤となるものを修得します。特に、総合政策概論、政策規範論、政策過程論、政策評価論は必修とします。また、「展開科目」の6つのクラスターの概論的な科目を1年次から履修できる選択必修科目として設定します。④「展開科目」においては、具体的な政策・企画の立案・提言をするうえで必要な専門的知識体系を修得します。専門領域としては、現代社会を総合的に俯瞰することができる、「政治・行政クラスター」、「経済・環境クラスター」、「国際クラスター」、「社会・文化クラスター」、「人間科学クラスター」、「情報・メディアクラスター」の6つのクラスターと総合的に学ぶことができる総合領域を用意しています。いずれの科目も2年次以降履修できる選択科目となります。⑤「リサーチ・プロジェクト」においては、1年次から4年次まで少人数クラスで、総合的かつ実践的に、課題発見・解決に向けた演習を行います。1年次では、スタディスキルの獲得から、文献調査やフィールド調査、グループワークによるディスカッション、プレゼンテーションなど、能動的に調べ考える技法について学びます。2年次では、専門領域における問題発見や研究・分析方法、政策・企画の立案・提言方法などを実践的に学びます。3年次・4年次では、独創性を備えた政策の立案・提言ができる力の養成を目指して、現実の問題により深くコミットした調査・研究・実践を行います。

【教育方法】

①リサーチ・プロジェクトおよびリテラシー科目においては少人数クラスを基本とし、教員の目が学生に行きわたるようにします。また、そのことで、学生の中に協働やプロジェクト意識が生まれます。②同じ内容を複数クラスで実施する科目については、担当教員によるチームティーチングを行います。このことで、教育内容を統一し到達レベルを標準化すると同時に教育上の問題解決を教員が協働で行うFDの実践ができます。③英語科目においては習熟度別のクラス編成を行い、学生の習熟度に合わせた教育内容を提供します。④理論的な専門知識を実社会で

の問題解決に適用しようとしても限界があります。逆に問題を深く洞察するためには専門知識が不可欠です。そこで、講義室で学ぶ学術知と、問題の現場から学ぶ実践知を融合したアクティブ・ラーニングを行います。⑤学生が協働しながら学ぶグループワークを取り入れることで、1人では気づけなかった事柄を理解しより広く深い学修ができます。また、そのプロセスを通じ、相互扶助の精神を養い、1人ひとりの役割に気づくことで自分の可能性を開くことができます。⑥先輩学生が後輩学生の学修支援を行うピア・サポートを授業およびコンピュータ室で実施します。後輩学生の授業への理解が深まるだけでなく、教える側の先輩学生にとっても成長の機会となります。

【教育評価】

①科目の性質により、様々な学修成果の評価方法を適用します。学期末に行う試験やレポート課題だけでなく、授業内での小課題やリアクションペーパーなどで理解度や達成度を評価します。また、アクティブ・ラーニング型授業においては学期末にプレゼンテーションを行い評価することもあります。②リサーチ・プロジェクトでは、クラス内のプレゼンテーションだけでなく、学年全体でプレゼンテーションする機会を設け、複数の評価主体からの評価を受けます。③1年間の振り返りとして、定量的・定性的な評価シートを用い、学生自ら現状の評価を行います。またこれを踏まえアドバイザー教員との面接を行い、今後の学修の方向性を確認します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf>)

(概要)

総合政策学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学HP及び入試要項に掲載している。

○総合政策学部総合政策学科

卒業認定・学位授与の方針(DP)及び教育課程編成・実施の方針(CP)に定める教育を受けるために必要な、以下に掲げる目的意識や意欲、資質、能力を身につけた人物を求めます。

①身近な社会問題についての問題意識をもち、基礎的な情報や知識を取得しており、主体的に解決したいという意欲がある。②グループワークなど協働の場で、他の人と協力しながら課題に取り組むコミュニケーション力と、それをやり遂げる意欲がある。③高等学校等の教育課程における基礎的な知識・技能と、それに基づく思考力・判断力・表現力をもつ。特に、(1)現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎と、それと関連させながら人間としての在り方生き方を考える力、(2)人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重しながら言語を通して円滑に相互伝達・相互理解を進めていく能力、(3)外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力をもつ。④求められる課題に最後まで取り組むことができる。

学部等名 心身科学部(心理学科、健康科学科、健康栄養学科)

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose01.pdf>)

<p>(概要)</p> <p>心身科学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○心身科学部心理学科</p> <p>①「こころ」と「からだ」の相互関係を理解する、②身につけた知識・技術を自分およびその家族・友人等の心理的健康の保持・増進に活用することができる、③あらゆる職場における業務に柔軟性をもって対応することができる、④広範にわたる心理学分野において専門的な知識・技術を身につけ「心の問題」に対応できる専門家を養成する。</p> <p>○心身科学部健康科学科</p> <p>①人間性豊かで科学的な知識を背景とする保健体育教員の養成、②健康スポーツ科学や言語聴覚科学に関する研究の推進、③地域における健康創りやスポーツイベントへの貢献、④障がい者スポーツを始めとするスポーツ活動の推進・協力。</p> <p>○心身科学部健康栄養学科</p> <p>①実践活動の場での問題解決力、②グローバルな視点に立った総合的、複眼的な思考力、③高度情報化に対応したコミュニケーション力、④多職種との連携にも対応できる専門知識・技術の獲得、達成。</p> <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>心身科学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○心身科学部心理学科</p> <p>人間および人間が営む生活に対する心理学的視点を多角的・科学的に形成し、自分およびその家族・友人等の心理的安定や活性化に活用することができ、対人支援業務のみならずあらゆる職場における業務に柔軟性をもって活用・応用することができる知識と技術を修得した者に学位を授与します。</p> <p>○心身科学部健康科学科</p> <p>人々が豊かな人生を歩めるように、健康科学を活かしたアプローチができる人材を養成します。健康科学が包含する専門分野において、以下の能力を身につけていると判定したものに学位を授与します。</p> <p>①科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。②社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。③コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。④健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。</p> <p>○心身科学部健康栄養学科</p> <p>①栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている。②栄養・食品・調理に関する知識を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる。③環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる。④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる。⑤栄養ケアマネジメントを実践できる。</p> <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)</p>

(概要)

心身科学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○心身科学部心理学科

認知・行動、発達・教育、社会・産業、人格・臨床、計量の心理学ほぼ全領域に関する科目を用意し、基礎と応用、座学と演習、知識と実践という視点で4年間の学習を構成する。また、可能な限りの少人数教育を行い、討論、実践演習、卒業論文の作成、発表等を通じて単なる知識の習得のみならず多角的・科学的視点や応用力・創造力・実践力の形成を行い、社会に役に立つ人材養成をめざすカリキュラムとする。

○心身科学部健康科学科

①健康科学が包含する幅広い領域の専門家が科学的根拠に基づいた教育を実施します。②講義科目と連携した実技系・演習系科目を展開し、専門的な知識と実践の融合を図ります。③学生がグループで協働して学習する機会を確保します。④学生が自ら健康課題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニングを積極的に展開します。⑤自らの学びを深めるために、国内外のボランティアやインターンシップなどの課外活動を奨励します。⑥すべての科目において、個性を尊重した人間教育を実施します。

○心身科学部健康栄養学科

①建学の精神「行学一体、報恩感謝」に立脚した職業倫理の育成をする。②幅広い基礎科目の展開から認知力を高めるとともに、専門科目を積み上げることにより専門的な知識を深めることで、人間栄養学に基づく先端の専門知識と確かな技術力の育成をする。③講義科目と連携した演習・実習科目を通じて、栄養士・管理栄養士に必要とされる知識・技能を統合し、実践活動の場での課題を解決できる能力を育成する。④グローバルな視点に立って総合的、複眼的に考え、EBN (Evidence-Based Nutrition) に基づいて問題解決できる力の育成をする。⑤人々の豊かな人生 (QOL: Quality of Life) を支援できる力の育成をする。⑥高度情報化に対応したコミュニケーション力の育成をする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf>)

(概要)

心身科学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。

○心身科学部心理学科

心理学に興味があり人間の理解を深めたい人を受け入れるが、心理学各分野の知識・技術を自分や取り巻く人々の生活および将来的な職業に活かしていきたいという明瞭な意思を持つことが望ましい。そこで、学生に求める入学前の学習歴、学力水準、能力を以下に示す。

【入学前の学習歴】

・先行研究を理解し、調査、実験、分析を行うため、国語総合、コミュニケーション英語、数学 I・A を修得していること。・こころの現象に対して多角的にアプローチするため、上述以外にも現代社会、歴史、生物、情報の科学、芸術などの科目を修得していることが望ましい。

【学力水準】

・国語、数学、英語の基礎学力を備えていること。・「文系」および「理系」にとらわれず、実技教科も含め高等学校の教育内容を幅広く学修していること。

【能力】

・心理学の様々な分野に興味を持ち、隣接領域（神経科学、社会学など）の考え方にも関心を持って幅広く学ぶことができる。・実験、検査、調査、統計処理、外国語文献読解など、人間を理解するために必要な様々な技能の修得に意欲的に取り組むことができる。・論理的に思考し、多様な「こころ」に関する知識を日常生活に応用できる。

○心身科学部健康科学科

①高等学校等で学習した科目について基礎的な学力を有し、それらの学習への興味・関心があるもの。②健康科学を、積極的かつ前向きに学ぶ意欲があるもの。③健康運動指導士、保健体育教員、養護教諭、言語聴覚士等の専門資格取得や健康開発科学、スポーツ科学、言語聴覚科学の学修を希望するもの。④健康科学を活かして社会に貢献したいと考え、多様な活動への参加希望があるもの。⑤主体性を持ちながらも他者を尊重し、他者と協働して、自らを成長させることができるもの。

○心身科学部健康栄養学科

①高等学校で履修した主要科目（特に、「生物」「化学」関係の科目及び分野）について基礎的な知識を有し、それらの学修への興味・関心がある人。②栄養士、管理栄養士の国家資格の取得をめざす人。③栄養面から健康課題に取り組むための専門分野を意欲的に学ぶ人。④健康栄養学科の教育目標、教育内容を理解し、知識や技術の習得に取り組むことができる人。⑤主体性をもって多様な価値観をもつ人々と協働して学ぶことができる人。

学部等名 薬学部医療薬学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purposes1.pdf>）

（概要）

薬学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○薬学部医療薬学科

生命の尊厳について深い認識を持ち、医療を協働の場として人々の健康維持と医療の発展に積極的に貢献し、共創を通じて未来を開拓する研究心を持った医療薬学専門人を養成すること。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf）

（概要）

薬学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○薬学部医療薬学科

本学科所定（6年）以上の期間在学し、薬学部医療薬学科の教育理念・目標に沿って設定された授業科目を履修して、次のような能力を身につけた上で、所定の単位（186単位以上）を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。

①人々の健康維持と医療の発展に携わる者として求められる教養、倫理観とコミュニケーション能力を身に付けていること。②薬学分野における基礎的・専門的知識ならびに技能と態度を修得していること。③自己研鑽能力とともに、科学的思考力・実践能力・問題解決能力を身に付けていること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf）

<p>(概要)</p> <p>薬学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○薬学部医療薬学科</p> <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得するために、講義、実習、演習において薬学の知識・技能・態度を身につけると共に、卒業研究では、科学的分析力と論理的思考能力を涵養します。さらに、臨床の現場で求められる臨床薬学の知識やコミュニケーション技術の修得を通じ、多様な問題を自ら解決できる能力、薬剤師に必要な学識及びその応用能力並びに医療人としての倫理観と使命感を養成する体系的なカリキュラムが編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての幅広い教養を身につけるために、人文社会系、語学系の教養教育科目を学びます。その後、専門教育科目、実習、演習を通じて、臨床の現場で求められるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、及び、医療人として求められる倫理観を修得するための教育を行います。 2. 薬学分野における基礎的・専門的知識、技能、態度を修得するために、基礎系、衛生系、医療系、臨床系科目の講義を行うとともに、実習、演習を通じて問題発見・解決能力を養成します。また、薬学臨床教育として、学内での事前学習で修得した体系的な能力を、学外実務実習で患者・生活者を対象に活用することにより、実際の臨床現場で必要な対応能力を養成します。 3. 科学的思考力、実践能力、問題解決能力、自己研鑽能力を修得するために、発展系科目を中心に基礎的知識と専門的知識を統合させる教育を行います。さらに4-6年次には、全学生が各講座に所属し、卒業研究を通じて、多様な問題を自ら解決できる能力の涵養を図ります。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。</p> <p>○薬学部医療薬学科</p> <p>医療人としての倫理観と使命感をもとに、生涯を通じて自己研鑽に励み、チームの一員として積極的に医療に貢献し、生命科学の進歩や発展を通じて人間の幸福を追求できる高い志をもつ学生を求めています。高校3年間において、理科系科目（化学、生物学、物理学）および数学を勉学し優秀な成績を修めると共に、語学（国語、英語）についても十分に修学し、論理的な思考ができ、主体的に勉学に努めることができる学生を希望します。</p>
<p>学部等名 歯学部歯学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>歯学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○歯学部歯学科</p> <p>①倫理観を持った人間性豊かな歯科医師の養成、②学際的教養を身に着けた歯科医師の養成、③歯科医療技術に習熟した歯科医師の養成、④国際貢献と地域歯科医療への協力。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p>

<p>(公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2020_01.pdf)</p>
<p>(概要) 歯学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○歯学部歯学科 学生に豊かな人間性と高い倫理観ならびに専門的知識を備えることを求め、所定の単位を修得した上で、以下の6つの能力を適切に評価して、歯科医師として適格と判定した人の卒業を認め、学士（歯学）の学位を授与します。</p> <p>①多様な人々と良好な人間関係を構築するコミュニケーション力を身につけている。②建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。③グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。④口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。⑤歯科治療に必要な高頻度治療の基礎的技能訓練を修了している。⑥地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p>
<p>(公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2020_01.pdf)</p>
<p>(概要) 歯学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。</p> <p>○歯学部歯学科 【教育内容】 ①「宗教学」をはじめとする教養教育科目を通して建学の精神と豊かな人間性、生命の尊厳、倫理的態度を涵養する。②到達目標を明確化した教育課程を、「教養教育科目」と「専門教育科目」の連携を図りながら体系的に編成し、知識、態度、技能を培う。③科学的根拠に基づいた予防・診断・治療に関する専門的知識の修得を培う。④患者さんや医療専門職者など多くの人とのコミュニケーションに必要な知識、態度、技能を培う。⑤歯科治療に必要な基礎的技能と最新の歯科治療に必要な知識を学修し、科学的思考能力を培う。⑥医療現場で求められている医科・歯科連携、多職種連携や在宅医療などのチーム医療に関する基礎的知識を培う。</p> <p>【教育方法】 ①習得した知識や技能を統合し、自主的な問題発見と問題解決思考能力を培うための学習を奨励する。②主体的・能動的な学修（アクティブ・ラーニング）を促す教育方法を実施し、学生に e-ポートフォリオを活用した「振り返り」を奨励する。③歯学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、必須の実践的能力（知識・技能・態度）の確実な修得を促進する。④コミュニケーションサポートシステム（CSS）体制、チューター制を活用して、学生が自発的に学修できる環境の充実に努めるとともに、学生が十分な学修時間を確保するよう推奨する。</p> <p>【教育評価】 到達目標に応じた学修成果を多面的に評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p>
<p>(公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>歯学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。</p> <p>○歯学部歯学科</p> <p>優れた人材を公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、卒業認定・学位授与の方針 (DP) 及び教育課程編成・実施の方針 (CP) に定める教育を受けるのにふさわしい、以下に掲げるような人の入学を求めています。</p> <p>①人としての基本的モラルを身につけている人。②感謝と思いやりの精神を持っている人。③歯学教育を受けるために必要とされる十分な理系の基礎学力を持っている人。④論理的思考に優れ、豊かな自己学習能力を涵養しようとする人。⑤医療人としての強い使命感と高い志を持ち、社会に貢献することを希望する人。⑥グローバルな視野と主体性を持ち、協働して歯科保健・医療を実践しようとする人。</p>
--

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : https://www.agu.ac.jp/guide/org/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
文学部	—	26人	17人	5人	0人	0人	48人
商学部	—	9人	7人	0人	0人	0人	16人
経営学部	—	13人	4人	1人	0人	0人	18人
経済学部	—	11人	4人	3人	0人	0人	18人
法学部	—	16人	6人	1人	0人	0人	23人
総合政策学部	—	10人	5人	2人	0人	0人	17人
心身科学部	—	27人	12人	3人	1人	13人	56人
薬学部	—	16人	9人	14人	8人	4人	51人
歯学部	—	26人	30人	67人	24人	1人	148人
教養部	—	19人	25人	19人	0人	0人	63人
大学院	—	5人	0人	0人	0人	0人	5人
その他	—	8人	1人	2人	0人	0人	11人
b. 教員数 (兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		922人					922人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法 : https://aris.agu.ac.jp/aiguhp/KgApp					
c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)							

学内に FD 委員会規程に基づく委員会を設置し、各学部における FD 活動及び全学 FD 活動について審議・報告している。年度末には学部ごとの諸活動を取りまとめた「FD 活動報告書」を作成、発行している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	530 人	526 人	99.2%	2147 人	2246 人	104.6%	10 人	2 人
商学部	250 人	256 人	102.4%	1006 人	1055 人	104.9%	2 人	0 人
経営学部	290 人	307 人	105.9%	1166 人	1254 人	107.5%	2 人	1 人
経済学部	250 人	260 人	104%	1006 人	1060 人	105.4%	2 人	2 人
法学部	295 人	304 人	103.1%	1201 人	1258 人	104.7%	2 人	0 人
総合政策学部	210 人	217 人	103.3%	847 人	875 人	103.3%	4 人	0 人
心身科学部	400 人	407 人	101.8%	1554 人	1624 人	104.5%	4 人	1 人
薬学部	145 人	144 人	99.3%	870 人	862 人	99.1%	若干名	0 人
歯学部	125 人	121 人	96.8%	750 人	779 人	103.9%	若干名	0 人
合計	2495 人	2542 人	101.9%	10547 人	11013 人	105.3%	26 人	6 人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数		
		進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	490 人 (100%)	5 人 (1.0%)	437 人 (89.2%)	48 人 (9.8%)
商学部	252 人 (100%)	1 人 (0.4%)	240 人 (95.2%)	11 人 (4.4%)
経営学部	259 人 (100%)	0 人 (0%)	248 人 (95.8%)	11 人 (4.2%)
経済学部	253 人 (100%)	0 人 (0%)	247 人 (97.6%)	6 人 (2.4%)
法学部	308 人 (100%)	1 人 (0.3%)	280 人 (90.9%)	27 人 (8.8%)
総合政策学部	203 人 (100%)	0 人 (0%)	197 人 (97.0%)	6 人 (3.0%)
心身科学部	350 人 (100%)	13 人 (3.7%)	292 人 (83.4%)	45 人 (12.9%)
薬学部	144 人 (100%)	1 人 (0.7%)	114 人 (79.2%)	29 人 (20.1%)
歯学部	122 人 (100%)	0 人 (0%)	77 人 (63.1%)	45 人 (36.9%)
合計	2383 人 (100%)	21 人 (0.9%)	2132 人 (89.5%)	230 人 (9.7%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 東海旅客鉄道㈱、愛知県警察本部、㈱マキタ、名古屋市役所、東海東京証券㈱、愛知県教育委員会 (備考)
--

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	580人 (100%)	433人 (74.7%)	87人 (15.0%)	60人 (10.3%)	人 (%)
商学部	264人 (100%)	221人 (83.7%)	21人 (8.0%)	22人 (8.3%)	人 (%)
経営学部	290人 (100%)	235人 (81.0%)	32人 (11.0%)	23人 (7.9%)	人 (%)
経済学部	270人 (100%)	231人 (85.6%)	17人 (6.3%)	22人 (8.1%)	人 (%)
法学部	338人 (100%)	258人 (76.3%)	43人 (12.7%)	37人 (10.9%)	人 (%)
総合政策学部	226人 (100%)	181人 (80.1%)	21人 (9.3%)	24人 (10.6%)	人 (%)
心身科学部	378人 (100%)	328人 (86.8%)	25人 (6.6%)	24人 (6.3%)	1人 (0.3%)
薬学部	147人 (100%)	88人 (59.9%)	35人 (23.8%)	24人 (16.3%)	人 (%)
歯学部	126人 (100%)	69人 (54.8%)	44人 (34.9%)	13人 (10.3%)	人 (%)
合計	2619人 (100%)	2044人 (78.0%)	325人 (12.4%)	249人 (9.5%)	1人 (0.1%)

(備考)

編入学者・1年次以外の再入学者は含めておりません。

転部転科をした学生の状況は以下の通り。

	転部元学部	転部先学部	人数	措置内容
1	文学部	文学部	1	卒業
2	心身科学部	心身科学部	1	卒業
3	経営学部	文学部	2	卒業
4	経営学部	経済学部	1	退学
5	経済学部	経営学部	1	卒業
6	法学部	文学部	3	卒業 2、在籍 1
7	法学部	経営学部	1	卒業
8	歯学部	心身科学部	4	卒業 3、在籍 1
9	歯学部	商学部	4	卒業 1、退学 3
10	歯学部	経済学部	2	卒業 1、在籍 1
11	薬学部	文学部	4	卒業 3、退学 1
12	薬学部	心身科学部	2	在籍 1、退学 1
13	薬学部	商学部	1	卒業
14	薬学部	経済学部	4	卒業 3、在籍 1

※1・2は転科

⑥ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画において、科目ごとの授業の到達目標を示すとともに、試験実施方法および評価方法・基準について明示している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
「愛知学院大学の単位認定及び成績評価に関するガイドライン」を策定し、単位数と学習時間についてや試験の形態、学則第9条に定める成績評価基準等をGPA制度の活用方法などと共に明記している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	宗教文化学科	128 単位	有・無	44 単位
	歴史学科	128 単位	有・無	44 単位
	英語英米文化学科	128 単位	有・無	44 単位
	日本文化学科	128 単位	有・無	44 単位
	グローバル英語学科	128 単位	有・無	44 単位
商学部	商学科	128 単位	有・無	44 単位
経営学部	経営学科	128 単位	有・無	44 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	44 単位
法学部	法律学科	128 単位	有・無	44 単位
	現代社会法学科	128 単位	有・無	44 単位
総合政策学部	総合政策学科	128 単位	有・無	44 単位
心身科学部	心理学科	128 単位	有・無	44 単位
	健康科学科	128 単位	有・無	48 単位
	健康栄養学科	128 単位	有・無	48 単位
薬学部	医療薬学科	186 単位	有・無	単位
歯学部	歯学科	220 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： http://www.agu.ac.jp/life/rules/gpa2.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.agu.ac.jp/guide/data/student.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
本学ホームページ「大学紹介」ページ内にある「情報公開」項目の「教育情報の公表」にて掲載。
<https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html>
(詳細)
○キャンパス案内
<https://www.agu.ac.jp/guide/campus/>
○運動施設
<https://www.agu.ac.jp/life/facilities/>
○課外活動の状況および施設

<https://www.agu.ac.jp/life/club/>
 ○休息を行う環境・その他の学習環境
<https://www.agu.ac.jp/life/facilities/#cafeteria>
 ○主な交通手段
<https://www.agu.ac.jp/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	宗教文化学科	670,000円	240,000円	370,000円	教育充実費
	歴史学科	670,000円	240,000円	370,000円	
	英語英米文化学科	670,000円	240,000円	370,000円	
	日本文化学科	670,000円	240,000円	370,000円	
	グローバル英語学科	670,000円	240,000円	370,000円	
商学部	商学科	640,000円	240,000円	370,000円	
経営学部	経営学科	640,000円	240,000円	370,000円	
経済学部	経済学科	640,000円	240,000円	370,000円	
法学部	法律学科	640,000円	240,000円	370,000円	
	現代社会法学科	640,000円	240,000円	370,000円	
総合政策学部	総合政策学科	690,000円	240,000円	370,000円	
心身科学部	心理学科	690,000円	240,000円	420,000円	施設設備資金（1年次春学期のみ）、教育充実費
	健康科学科	690,000円	240,000円	440,000円	
	健康栄養学科	710,000円	240,000円	500,000円	
薬学部	医療薬学科	1,400,000円	200,000円	700,000円	施設設備資金、教育充実費
歯学部	歯学科	3,700,000円	600,000円	2,900,000円	歯学教育充実資金（1年次春学期のみ）、歯学教育充実費

注1) 文学部、商学部、経営学部、経済学部、法学部、総合政策学部、心身科学部の授業料、教育充実費は学年進行に伴い各1万年ずつ増額。

注2) 薬学部の授業料は2年次と5年次で10万円ずつ増額。

注3) グローバル英語学科では「Study Abroad」(海外語学研修)の費用として、授業料とは別に約50万円を別途徴収。

注4) 歴史学科考古学コースを選択した場合は、実習費として2年次に25,000円、3年次に25,000円、4年次に10,000円を別途徴収。

注5) 心身科学部心理学科：言語聴覚士コースを選択した場合は受講登録料および実習費として2年次以降毎年90,000円を別途徴収。また、3年次に60,000円、4年次に90,000円の病院実習費を別途徴収。

注6) 心身科学部健康科学科：健康開発科学コース・スポーツ科学コースを選択した場合

は実習費として2年次以降毎年30,000円を別途徴収。言語聴覚士コースを選択した場合は実習費として2年次以降毎年50,000円を別途徴収。また、3年次に60,000円、4年次に90,000円の病院実習費を別途徴収。

注7) 心身科学部健康栄養学科：実習費として3年次に36,000円、4年次に12,000円を別途徴収。

注8) 4年次に共用試験にかかる諸費用として約120,000円を別途徴収。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学独自の奨学金制度を設けている。 ・学習計画につき、オフィスアワーを明記し学生からの個別相談に応じる体制を整えている。 ・新生を対象に、春学期の授業開始前に履修相談会を開催している。 ・LA制度の一環として、学部教育の方針に沿って学部が運営する学習支援等のカテゴリーを設け、申請のあった学部について活動を認めている。 ・障がいを持つ学生に対し、点字ブロックや自動ドア、エレベーターの整備を進めている。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>①学部担当制・本学では学部ごとに担当者を配し、一人ひとりに寄り添った就職支援・指導を実施しています。また、キャリアコンサルタント国家資格取得者も配置し、専門的なアドバイスを行える体制を整えています。さらに、教職希望者には教職支援センター、公務員対策・資格取得についてはエクステンションセンターに相談窓口を設置しています。</p> <p>②様々な就職支援・単位認定科目として、1・2年生を対象とした「キャリア・デザイン」・2・3年生を対象とした「インターンシップ」を開講。また、3・4年生には、就職活動をより万全なものにするために、3年生次に5回実施する「就職ガイダンス」をはじめとして多様な対策講座・支援行事を実施。また、年間500社程の企業を学内に招いての就職セミナーや企業説明会を開催し進路先と学生を結びつける機会を提供しています。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 健康診断の実施</p> <p>毎年4月に健康診断を実施している。健康診断は、全ての学生が受診することとしており、都合により健康診断実施日に受診できなかった学生は、他の医療機関において受診するよう指導している。異常等が見つかった場合は、再検査や面談を実施し、必要に応じて他の医療機関に紹介等をしている。</p> <p>2. 健康管理</p> <p>保健センターを設置し、本学の専任教員である医師をセンター所長とし、看護師を配置し、学生の健康管理の他、健康相談や保健指導、緊急時の応急処置を行っている。また、風邪などの一般診療だけでなく、歯科診療や女子学生を対象とした女性健康相談・心のサポートを行う精神健康相談も応じている。</p> <p>3. 学生相談</p> <p>学生相談センターを設置し、専門の相談員（臨床心理士）を配置し、学生生活や対人関係等の悩み相談に応じている。</p>

4. 健康増進

日進キャンパスのスポーツセンターには室内プールやトレーニング室があり、学生の健康意識の向上と体力増進を促進している。
また、より多くの学生が利用してもらえるよう、様々なイベントを開催している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html>